

# コア・タイムス

[The Center for Overall Research on Education]

発行所 加西市立総合教育センター

加西市北条町古坂1173-14 TEL 0790-42-3723 URL <http://kasai-core.net>

## ○今月の紙面

- ①開設して三年目を迎えました
- ②総合教育センター 教育講演会
- ③加西白寿苑へ行ってきました-ふれあいホーム-
- ④新刊の紹介
- ⑤コラム ふうちゃんの言葉

## 開設して三年目の春を迎えました

播磨国風土記に、玉丘古墳のいわれとして記されている根日女伝説。それは、根日女と二人の皇子との出会いから始まった、美しくも悲しい恋の物語です。その古墳のある玉丘史跡公園を歩くと、やわらかな風が頬に心地よく触れて、春の訪れを感じる季節になって参りました。

当センターが開設して三年目の春を迎えます。加西市で

振興を図るために、様々な事業を行いました。現代社会における人々の価値観の多様化や人間関係の希薄化、規範意識の低下などにより、様々な課題が生じています。昨年は、いじめ問題が背景にある自殺や通学路における交通事故など、子どもたちの生命や身体を脅かす事件・事故が全国的な社会問題となりました。一方で、山中伸弥教授のノーベル生理学・医学賞といううれしいニュースがあり、日本の科学技術の水準の高さを改めて感じました。しかし、世界がグローバル化し、競争が激化する中で、資源の少ない我が国において



一年間、教職員の研修講座の開催をはじめ、小中連携教育の推進、そして、健全育成団体と連携し、地域及び家庭の教育力の向上を図るための取り組みを行って参りました。また、発達支援プログラムや青少年育成の推進、教育相談による適切な支援に力点を置いた取り組みなど、本市の教育の充実と

み出していくことが必要不可欠になってきています。教育は、社会発展の礎となる人材を育成する重要な役割を担っています。とりわけ高度情報化や国際化など、社会構造や社会情勢が急速に変化するなかで、地域の発展に貢献しうる能力の育成に加え、国際社会に飛躍する資質と能

力を兼ね備えた人材を育てることが求められます。そのために、時代が要請する「確かな学力」と「豊かな心」、「健やかな体」を培うことに全力を注がなければなりません。

今、加西市では、設立十年目を迎えたワッショイスクールや見守り隊、ブックママなど、学校支援ボランティアの活動があり、地域全体で学校を支える体制が整ってきています。また、地域での青少年健全育成活動や補導活動、加

## 教育講演会

総合教育センター

氏を講師に迎え、「子どもを伸ばす本場のやさしさ」をテーマに、教育講演会を開催しました。

当日は、保護者をはじめ、幼児や青少年の指導者など多数の方に参加していただきました。

講演では、これまでの活動でのエピソードを交えながら、子育てのポイントをわかりやすく話していただきました。楽しい話に魅了され、春風を感じる会場には、いつぱいの笑顔がありました。

参加いただいた方の感想をいくつか紹介します。

○あつという間に終わってしまいました。たくさん笑わせてもらいました。

○失敗や挫折を繰り返しながら子どもたちがゴールに向かっていく姿を思い浮かべ、子育てについて考えさせられました。

○子育てで悩んでいましたが、晴れやかな気持ちになりました。

○共感できる所が多かったです。本場の意味で子どもと向き合いたいと思います。



講演会の様子

西市ネット見守り隊による活動なども特筆に価する活動です。当センターとしましても、このような地域の力を大切にしながら、今後も本市の教育の充実と振興に努めて参ります。

結びに、これまで心強いご支援とご指導をいただきました関係者の皆様から感謝の御礼を申し上げます。どうか今後とも当センターの事業につきまして、より一層のご理解とご協力をよろしくお願いたします。

センターでは、2月27日(水)にNPO法人生涯学習サポート兵庫の榎本英樹

# 加西白寿苑へ行ってきました

—ふれあいホーム—

総合教育センターふれあいホームの教室生は、3月8日（金）の午前中、利用者の方との交流を目的に、介護老人保健施設「加西白寿苑」へボランティア訪問に行きました。

教室生は、トランプで手品をしたり、紙芝居をしたりして、利用者の方に楽しんでいただきました。

初めは緊張していましたが、拍手やおほめの言葉をいただいで、だんだんほぐれていきました。



手作りプレゼント

短い時間の交流でしたが、教室生にとっても心温まる一時となりました。

## 《白寿苑を訪問して》

折り紙で作ったコマとくす玉、似顔絵などを持って白寿苑を訪問しました。これは、おじいさんやおばあさん方にプレゼントしようと思っただけです。また、けん玉の実演やトランプのマジック

も披露しようと思っただけです。

いよいよ紙芝居をすることになりました。すると、突然

「聞こえないよ。」と言われてしまいました。私はただ読んでいるだけで、聞いてもら

うという気持ちじゃなかったことに気づきました。声を出す

ということを意識してもっともつと練習しておけばよかつたと思いました。

折り紙のプレゼントのときはみなさんがとても喜んでくださってうれしかったです。

コマを回すときもたくさんの方が私たちの所まで来てくださって、たくさん話もできました。みんな笑顔になっていました。

計画の段階では、「笑って話をしていけば何とかなるさ。」と軽く考えていました

が、実際にその場へ行けば困ったことが出てくるものだなあと思いました。つくづく自分の考えの甘さと言うものを実感しました。

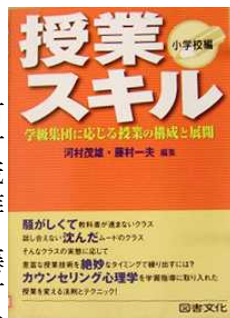
この体験を通して、自分のことだけではなく周りのこと

をよく考えることの大切さを学びました。これからはもっと周りをを見て、他の人のことも考えて物事を判断していきたいと思えます。

## 新刊の紹介

『授業スキル 小学校編』

学級集団に応じる授業の構成と展開  
成と展開（図書文化）



河村茂雄・藤村一夫

「授業は学級経営における中心領域である。つまり、教師は授業を展開しながら、同時に、学級づくりもしているのである。騒がしくて教科書が進まないクラス、話し合えない沈んだムードのクラス、そんなクラスの事態に応じて、豊富な授業技術を絶妙のタイミングで繰り出すには？」この本では、カウンセリグ心理学を学習指導に取り入れた授業を変える法則とテクニックが満載です。

## ふうちゃんの言葉

「人間が動物とちがうところは、他人の痛みを自分の痛

みのように感じてしまうところなんや。ひよつとすれば、いい人というのは、自分のほかに、どれだけ、自分以外の人間が住んでいるかというところで決まるのやないやるか」これは、故灰谷健次郎さんが神戸の下町を舞台に描いた「太陽の子」で、主人公のふうちゃん（小学6年生）に心の中でつぶやかせた言葉です。この言葉は灰谷さんの作品のすべてに共通する重い問いかけではないかと思えます。

ミリオンセラーとなった「兎の眼」を書かれた時、灰谷さんは「子どもの優しさがすべての人々の足もとを照らし、未来に向けて歩もうとする太陽のような希望を、どのような不幸な人でも持てる物語を書きたかった」と話されました。



思いやりや優しさ、これらは私たちが幸せに生きていく上で最も大切なことではないでしょうか。人をだましたり人を傷つけたりする事件が毎日のように報道されています。人を信頼できない世の中で子どもたちが健全に成長できるでしょうか。

14年ほど前になりますが、南淡町で灰谷さんとお会いす

る機会がありました。灰谷さんは当時沖縄・渡嘉敷島に住まれ、畑をされていた。そんなこともあって、トマトの畝（うね）の作り方から始まり、農業のことに熱弁をふるわれました。そして最後に「いい作物をつくるには、作物に足音を聞かせてやることではないかなあ」と、そして「これは教育にも通ずるでしょう」と話されました。灰谷さんの個人的で情熱をもった生き方に触れ、感動を覚えたのを思い出します。

人は思いやりや優しさにふれると、心が温かくなります。相手のことを考えて行動することができると、少し気分が良くなります。人と人がどのような関係を築いていくかによって、社会が変わり、人生が変わるように思えます。今の自分を少し見つめてみませんか？



### 【教育相談窓口】（予約制）

TEL 42-3730

- 特別教育相談（臨床心理士）  
毎週木曜日 9:00～17:00
- 発達支援相談（アドバイザー）  
毎週水・金曜日 9:00～12:00
- 夜間相談（要問い合わせ）  
毎週火・金曜日 18:30～20:30
- 一般教育相談 予約不要  
月曜日～金曜日 9:00～17:00